



2015.1.11 ボーイスカウト 新春餅つき大会

四旬節における悪に対する

キリスト者の権威を証言する

助任司祭 マーティン神父

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」

マタ4・4

数週間前、子供たちに英語を教えている時、以前勉強した事を復習するため、子供たちに「この英語の文章を読んでくれない」と尋ねると、皆出来ないと答えたので、「じゃこれを読める人に1000円をあげよう」と言う一人の子供が「じゃ試してみます、やっぱ人間は欲望で生きる」と答えました。その子は正しく読めたが、交換条件無しには出来なかった。

2月18日から教会の新しい季節「四旬節」が始まります。この季節において私たちを導いている地上を旅する教会は、私たちがどのように信仰に対する誘惑を断ち切り、信仰を強める目的にかなうために、清い祈り、良い施し、断食を目的として神の御心を行うかを励まし導いています。たとえ、信仰をこめて神に向かつて歩むキリスト者にも健康の理由からや怠けとしてやその意味や価値がわからないために断食をしない者にも、いろいろな誘惑が試されます。しかし、従う人には希望と行いによつての報いを受けると思えます。断食とは、食事をとらないことだけを意味しているわけではありません。今までの自分の生き方、価値観を捨て、神の望みに適う行いをする事です。

私たちは、誘惑に出会うことを恐れ逃げたのではなく、誘惑に出会ったときに神の望みを行うことにより神から与えられた聖霊の力により誘惑に打ち勝つ恵みを受

(2ページに続く)

平日のミサ時刻：

月曜日・水曜日・木曜日・土曜日 午前7時
第3土曜日 午前10時30分 子供のミサ(マリア館)
火曜日 午後7時
金曜日 午前10時 初金曜日 午後7時

主日のミサ時刻：

土曜日 午後5時 (ミサ後、聖体礼拝)
日曜日 午前8時・9時30分・午後6時
Sunday Mass in English 9:30 am
(in the Marian Hall)
ベトナム語のミサ 第4日曜日 午後3時30分

(1ページからの続き)

けることができるのです。つまり、私たちが成長するためには誘惑に出会う体験も大事だと思いません。それは、決して罪を犯すためではなく、良い者となるための罪に打ち勝つ権威を強めるためなのです。

では、どのようにして誘惑に打ち勝てばよいのでしょうか？聖書にはキリストの模範に倣うように書かれています。イエスが荒野で誘惑を受けた時の記述に答えて教えが語られています。「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」それぞれに与えられている賜物によって誘惑が起こると思います。忍耐強い人には怒らせる誘惑が、ものがある人には自分だけのために使う誘惑が、頭が良い人や知恵がある人には人をだます誘惑がおこるように、キリスト者として満たされていく賜物によって日々の生活の中で出会う誘惑があります。毎年同じ事を行っていると違って、年毎に希望が違います。今度の四旬節の初めにも改めて教会の教えを認め、心に深く受け止めればその季節の実りもさらに豊かになります。

マリア会より

新年を迎えマリア会員の皆様には希望に満ちお健やかな毎日をお過ごしのこととお慶び申し上げます。

松の内を過ぎ、女正月の始まりにマリア会でも1月9日恒例の新年会を今年もマリア館ホールで開催しました。女性信者さん同士の新たな出会いに恵まれますようにと願い、初めて参加の方や以前活動されていた方など神父様を含め約70名のご参加を頂きありがとうございました。

司祭団からのご協力もあり、マーティン神父様が故郷ガーナの大変めずらしいスープを作って下さって、バザーの時に披露された踊りもみなさんのご参加で盛り上がりました。新しい年へのパワーを充電できたでしょう。最後は全員合唱、春に向かっの歌声であたたく楽しく、この一年のマリア会への始動が喜びに満ちた会となりました。

どうぞ、まだご参加のない方、今年も数ある活動にお声をかけてください。教会での出会いをともに喜び、恵みを分かち合いましょ。

中高生保護者会講演会

1月25日(日)「私と教会」をテーマに中高生保護者会の講演会を開催しました。講師は教会学校リーダーの伊藤恭輔さんにお願しました。

伊藤さんは教会学校リーダー22年目ということで、教会学校についてもお話しくださいました。

自由意志を尊重して臨まれたという教会学校クリスマス聖劇のお話からはじまりました。教会学校のリーダーになりましたの頃は子ども達に何を伝えればいいのかわからず、当時の担当司祭に相談したら、「神様はそばにいるよ。どこにでもいてくださるよ」と子ども達が感じられるようにしてほしいとただそれだけ託されたとのこと。この精神は今も変わらず引き継がれていることを当時の苦勞と葛藤を交えながらユーモアたっぷりにお話をされました。教会学校の手はいつも神父様だそうです。そして、ご自身の洗礼についてもお話してくださいました。伊藤リーダーと教会の関わりは本当に不思議で神様によって導



かれていると強く感じられ、気がつけばあっという間に時間が過ぎていました。講演の中で神様を味わう経験でした。教会の使命を受け忠実に果たされている伊藤リーダーのお話だからこそだと感じました。又、自分の使命についても考えさせられる時もありました。ご講演に感謝申し上げます。

講演の終わりにオプスデイ神様の言葉をお父さん・お母さんへのメッセージとして贈ってくださいましたので、感謝の気持ちを込めてご紹介します。胸がいつぱいになります。神に賛美。神に感謝。



「子供たちをもつことを恐れないで。神が送って下さるすべての子供は、神がお父さん、お母さんを信賴している証拠です。」

お父さんとお母さん。なぜなら新しい命ができる時、神は靈魂を創造されます。その靈魂はもう不滅であつて、体の復活の後、体とともに永遠に天国で神との幸せに与るために造られたのです。

天国に行ける子供を育てる務めこそが、神がお父さんとお母さんを信賴する証拠なのです。

その命を育て上げて、キリストの姿に形造り、本物のキリスト者とするのです。ですからあなたたちの良い子となるように子供を育てねばなりません。そして、同時に神の子となるように。」

(福者ドン・アルバロ「アルバロ・デル・ポルティエリヨ」)

堅信一泊黙想会と

高齢者施設訪問

中高生会 梅村祥子

12月20日(土)と21日(日)にかけて、堅信を受ける中高生は一泊黙想会をしました。21日(日)には、その他の中高生を含めた合計9名と大学生のスタッフ2名



で高齢者施設「さくらいふ池場」を訪問しました。この施設への訪問は今年で2回目になります。事前に、当日参加できない中高生も集まって、合計35枚の心のこもった手作りのクリスマスカードを作成しました。結構みんな創造性があり、絵心や美術的センスがありました。当日は昨年同様クリスマスマスの歌や朗読に加え、今年は施設の方々と「ジングルベル」を鈴と一緒に鳴らしながら歌ったり、折り紙をして交流しました。参加した中高生が施設の方と交流する姿に、普段とは異なる真剣さや優しさを見ることができるとも良い機会でした。



4・聖体の秘跡（つづき）

聖なるコムニオ

聖体の秘跡は、聖なるコムニオという名称をも与えられています。コムニオとは、交わり、また、一致を意味します。聖体拝領すること、つまり、キリストの体を自分の体に頂くことは、キリストとの完全な一致の実現を目指す、愛の交わりであり、その一致の先取りなのです。というのは、イエス・キリストがご自分の生き方、また、ご自分の死を以て示してくださったとおりに、愛は相手のために生きるという無条件の決断であり、相手に自分のすべてを奉獻することです。相互の愛は相互の奉獻になり、深い絆になります。そして、愛は完成されたら、愛し合う人は一体となるのです。結婚誓約の言葉は、そのような愛をよく表しています。「私たちは夫婦として、順境にあっても、逆境にあっても、病気のときも健康のときも、生涯、互いに愛と忠実を尽くすことを誓います。」この誓いを交わして、結婚の絆によって結ばれ、夫婦となった男女

は、この誓約に忠実に生きることによって、相互の愛を深め、一体となるのです。夫婦の営みは、身体の言語による愛の告白と自分のすべてを相手にささげ、相手をありのままに受け入れる宣言として、結婚誓約の更新であります。と同時に、そのときに二人が体験している一致は、結婚の目的である二人の一致の先取りになっていくのです。それと同じように、聖体拝領するキリスト者は、身体を以て、イエスへの愛を表し、洗礼の約束、つまりキリストと一つになるためにキリストに従い、キリストから与えられた使命を果たすことによって、キリストに自分を奉獻するという約束を更新するのです。

夫婦の交わりが真の愛の表現である時に、結婚誓約の言葉に忠実に生きるために必要な力をもたらし、聖体拝領することと自分の真心が一致しているならば、聖体拝領によるイエスとの交わりは、イエスとの絆を強め、日常生活においてイエスに忠実に従うための大きな力になるのです。けれども、浮気したばかりの配偶者は、家に



ミサ聖祭

ミサ聖祭は、聖体の秘跡のもう一つの名称です。ラテン語では、感謝の祭儀は *"Ite missa est. Proedamus in pace"* という言葉で終わります。それは「あなたたちは派遣されています。平和のうちに行きましょう。」という意味です。私たちが感謝の祭儀に参加するのは、秘跡においてキリストと共同体と出会うことによって強められるから、自分の生活の場でキリスト者らしく生き、イエスから与えられた使命（マタ 28・19、20）を果たすことによって、イエスとの交わりを実際に深めながら、他の人をイエスのもとに導くことができるためなのです。教会は、感謝の祭儀をミサ聖祭と呼ぶことと派遣の祝福によってそれを私たちに意識させているわけです。

日常の生活におけるイエス・キリストの記念

愛を告白することは、大切なことですが、人間関係を実際に深めるのは、愛の実践なので、私たちが、聖体拝領をすることによって、イエスに対する私たちの愛を告白して、イエスとの関わりを目的である一致を

先取るわけですが、私たちのイエスとの交わりを深め、永遠に続く完全な一致を実現させるのは、自分の考え方と生き方をイエスの考え方と生き方に合わせることによってイエスに従って生きることに、つまり、信仰と愛の実践なのです。

イエス・キリストは、自分の言葉を行うことの必要性、また、神の御心を行うことの必要性についてたびたび教えてくださいました（例えば・マタ7・24・27；マコ3・34・35）。けれども、最後の晩餐の席で弟子たちの足を洗うこと（ヨハ13・1・17）を以て、この教えを表現し、ご自分に倣って生きる重要性を特に強く強調してくださったのです。

福音記者聖ヨハネは、他の福音記者と比べれば、聖体についてのイエスの教えを詳しく伝えていませんし、最後の晩餐の場面を詳しく描いています。けれども、不思議なことにヨハネの福音書の中に、イエスによる聖体制定については何も書き記されていないのです。聖ヨハネは、最後の晩餐の中心であった聖体制定のことを忘れるはずがなかったのだ、それを省いたのならば、何らかの大事な理由が

あったと考えられます。おそらくそれは、聖ヨハネが福音書を書いたとき（一世紀の終わり）の教会の状態、特に、共同体が行っていた主の晩餐のときのキリスト者の振る舞いだったのではないかと思えます。この問題について聖パウロが次のように書きました。「それでは、一緒に

に集まっても、主の晩餐を食べることにならないのです。なぜなら、食事のとき各自が勝手に自分の分を食べてしまい、空腹の者がいるかと思えば、酔っている者もいるという始末だからです。」（1コリ11・20、21）そのときのキリスト者は、イエスの命令に従って「パンを裂くことと、または「主の晩餐」と呼ばれた儀式を行っていたが、聖パウロが描いている問題、つまりキリスト者は、キリストの記念となっている儀式の最中にさえ、自分のことしか考えないで、愛に背くような振る舞いをしていたという問題が起こっていましたから、多くのキリスト者が、この儀式はイエスによって命じられたものであると分かっても、この儀式の意義とこの儀式を行う目的を忘れていたか、それをまだ知っていなかったか、少なくとも、イエスがそれによって目指してい

た目的に達していなかったということが言えると思えます。従って、聖ヨハネは、聖体制定の場面よりも、イエスが弟子の足を洗う場面を伝える必要があると考えたのでしよう。なぜなら、この場面こそが、聖体祭儀に参加することの意義を表しているからです。

イエスご自身が、弟子たちの足を洗ったことについて次のように語られました。「ところで、主であり、師であるわたしから、あなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。」（ヨハ13・14）足を洗うことは、仕えられるためではなく、仕えるためにこの世に来てくださり（マタ20・28）、人から愛されることを要求したのではなく、自ら進んで出会った人を愛してきたイエスの生き方を象徴的に表すものです。愛に根差したイエスの生き方は、弟子が見做すべき模範であったということでした。また、翌日にすべての人々のためにイエスが実際に命をささげることも、弟子たちのための最高の愛の模範でもあり、次のように語りました。

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。」（ヨハ15・12、14）私たちは、聖体祭儀を行うことによってイエスを記念するのは、イエスのように生きることによって日常生活においてイエスを記念し、イエスの愛を多くの人々に伝え、多くの人々を永遠の命に導くことができるためなのです。

キリスト者は、聖体拝領によるキリストとの交わりによって強められて、洗礼の約束と聖体拝領によって表す自分の望みとキリストに対する愛に忠実に生きるならば、イエスから与えられた使命を果たすことができると同時に、キリストとの絆を段々と深め、ますますキリストのように考え、キリストのよう

に話し、キリストのように行うようになり、イエス・キリストご自身の姿に変えられ（2コリ5・18）、キリストと一体になる、つまり永遠の命に入るのです。

司祭団より

2月1日

- ・2月1日～2月28日…マイン師のお父様葬儀の為に帰国
- ・事務所前の掲示板記載事項の更新が必要。業者見積もりを取る。

報告・連絡事項

1月11日城東ブロック会議の報告

- ・次年度信徒協城東ブロック役員候補者決定。現役員、滑川正雄氏、浜野房江女史(いずれも東山教会所属)の留任。
- ・2月7日(土)殉教者祭 10時30分から栄國寺境内顕彰碑前にてロザリオの祈り、その後11時から司教ミサが捧げられる。

- ・11月29日 布池教会で教区デー司教ミサが行われる。時間は未定。

- ・1月18日司教を囲む新年の集いがあり、司教様から、教区の人の方へのお祝いと年頭書簡の説明があった。パーティーもあった。

2月14日 オルガン委員会開催

- ・2月3日に望月オルガンが点検を実施予定。
- ・その結果をもとに、2月14日にオルガン委員会を開催。

3月11日「東日本大震災犠牲者追悼・復興祈願ミサ」の参加を呼び掛け

- ・開催2回目。布池教会にて14時から講演会、展示会の後、ごミサを開催。
- ・南山教会へ宣伝にくる予定。

3月21日、22日四旬節の黙想会の進捗状況

- ・パウロ会の鈴木神父に決まっているが、詳細はまた後日

その他

- ・営繕委員会・・・教会の鐘について修復を実施。
- ・マリア館ホールと和室と2階集会室のエアコンの不調について。経年劣化により、不具合が発生している。製造後約20年経過しているため、修理部品がない。設備を交換するととなると1台当り300万円かかり、3台で1千万円近くかかる。大規模修繕の時期まで待てないか検討する。当面不具合が発生する事もあるが、その都度対応をし

- ていくため、ご不便をおかけする事もあるのでご了承頂きたい。
- 審議・相談事項

2月8日堅信式への対応

- ・パーティーの準備は中高生保護者会が担当。司会は運営委員
- ・長。

3月15日開催の高山右近のオペラ開催について

- ・各教会へポスターをつけて開催案内は連絡済
- ・教区ニュースへ開催記事を掲載
- ・実行委員会を設立し、定員・受付方法等を検討し、実施に当たる。(ボグダン師、神戸氏、酒井氏、水谷さん、伊澤さん)

次年度各会委員名報告依頼について

- ・現時点での人選状況の確認を行い、3月1日の運営委員会で集約する
- ・次年度の人選を、3月の運営委員会までに各会で決めておいてもらう。

南山教会2015年度行事予定表の掲載内容準備について

- ・2014年度の行事予定を踏まえ、2月22日までに2015年度の各行事を決めて事務局に提出。

その他

- ・マイン師の帰国。1月14日にお父様が帰天。日本には2月28日に帰ってくる予定。
- ・世界祈祷日 3月6日(金)
- ・南山教会にて(女性のみ参加可能)

公共交通機関を使用願うが、仮に駐車場が満車になったら、中庭を使用する。

9:30受付開始 10時～12時30分・祈り、活動交流

各会報告

中高生保護者会

- ・2月8日(日)堅信式パーティー後保護者会を開催予定。

青年会

- ・2月8日、2月22日 青年会があります。

今回は3月1日

ボーイ新春の餅つき大会

伊藤 宗太郎

97 団は去る 1 月 11 日に新春の餅つき大会を開催した。スカウトたちが元氣よく新年を寿ぎ、また信者の方々や近隣の人々と親睦を深めるため毎年行いうイベントだ。

当日は朝から好天気と温暖に恵まれて、子供たちはにこやかに教会中庭に集まってきた。冷たい石臼を温めるお湯を沸かすため、お鍋をかまどにかけ、バンバンと薪をくべた。煙にむせながらその焚き火に暖まって、にぎやかに不器用な手つきで包丁を持ち、野菜を切り裂いた。大根おろしと雑煮用の料理準備だ。

お母さん方は教会各部屋に分散して餅米を蒸す炊飯器を並べた。蒸し器が集中すると電気ブレーキが飛ぶのを警戒しての処置だ。

10 時半ミサが終わると同時にペツタン、ペツタンと餅つきが始まった。極めてタイミングがよく、子供たちはビニールの手袋をはめてお餅を丸め始めた。黄な粉餅、大根下ろし、雑煮、お汁粉などの美味しいお餅が次々と出来上がった。小さい子供用の木の臼で幼児たちがトントンと餅つきの初体験を味わっていた。

オイシイ！温かい！などの好評を受けてお昼までに 10 臼もついて

しまった。一人の外国人は珍しい日本の風習を大きなカメラでシャッターを連写していた。大功！集まりの輪ににこやかな言葉や笑いがはじけ、餅つき大会の目は十分に果たした。ヨカッタ！

ボーイ冬山でスキー訓練

伊藤 宗太郎

97 団は 1 月 23 日夕方から 25 日にかけて「朴の木平」にスキー訓練に出かけた。マイクロバス 2 台と自家用車 1 台で、スカウト、隊長、デンリーダー、インストラクター、家族、友人など総勢 43 名がニコニコ、ワイワイと出発した。

現地は割合に温暖でスキーには絶好な日和だった。雪質もよく、大量に積もっていたので、子供たちはキヤーと歓声を上げてゲレンデに飛び出した。みんな識別用にゼッケンを着け、スキーの熟練度で等級に分けて、滑り方をインストラクターから指導を受けた。

昼飯にはカツカレーや親子丼を美味しく食べ、豪快にスキーを楽しんだ。今流行っている 1 枚板のスノーボードは危険なため禁止。従来の安全な 2 本板のスキーに集中した。したがって怪我なく、25 日夜全員が雪山の醍醐味に満足して南山教会中庭に帰ってきた。オモシロカッタネ！

聖体拝領の方法



1. 案内にしたがって、行列して通路を進みます。拝領の直前、ご聖体に対する尊敬を表すために、前の方が司祭の前に立っている時、手を合わせて一礼します。
2. 前の方が脇に寄ったら、司祭の前に進みます。左の手のひらを上にし、下に右手を重ね、この両手を司祭の前に差し出します。
3. 司祭は、ご聖体を拝領者に示しながら、「キリストの御からだ」と言います。拝領者が「アーメン」と答えると、拝領者の左の手のひらの上に、ご聖体が置かれます。
4. ご聖体を授けられた両手はそのままの姿勢で、脇に寄ってから拝領します。右手の指でご聖体をうやうやしく持ち上げ、左手を添えながら、ご聖体をそのまま口に入れます。その場ですべてを拝領し、自席に戻ります。

以下の方は、聖体拝領が出来ませんので、ご注意ください。

- ◇ 洗礼を受けていない人
- ◇ カトリック教会以外で洗礼を受けて、カトリック教会の交わりに入っていないキリスト者
- ◇ 幼児洗礼後、まだ初聖体を受けていないカトリック信者
- ◇ 自分の責任で長い間教会から遠ざかっていたり、また大罪を犯しているにもかかわらず、ゆるしの秘跡を受けないで、まだ神と和解していないカトリック信者
- ◇ カトリック教会の教えとは異なることを伝えるカトリック信者
- ◇ 道徳に反する生活を送るカトリック信者
- ◇ 聖体拝領前の断食（1 時間）を守っていないカトリック信者
- ◇ その日の内に、既に 2 回の聖体拝領をしたカトリック信者

南山句会

平成二十七年一月十四日



万葉歌手習ひしたる冬籠り

新年の挨拶擦り切れ日々は過ぐ

ベツレヘム星を眞上に聖夜劇

睦み月坊主めぐりに声あげる

マリア像彫の深さも初明り

山茶花の散る淋しさと華やぎと

友よりの干支の木目込初暦

看取りゐて窓越しに見る細雪

庭の樹々幻影めける雪月夜

香を焚き娘が正客の女正月

返り花ふと見上げたる枝の先

とく子

一藤

義子

聖子

豊子

牧子

せつ子

美智子

佐知子

眞喜子

紀子

毎月第二水曜日午後一時半

マリア館二階集會室

信者の消息

受洗

おめでとうございます

Jane Joy

くさま ちさと
モニカ 草間 千里

転入

ようこそ

おおしま としみ
マリア・ノエル 大島 利美 (主税町教会)

帰天

ご冥福をお祈りします

- 1/5 クララ・マリア 荻野 秀子 (96歳)
 1/9 マリア・ロザリア 船木 とし子 (89歳)
 1/10 マリア・アズンプタ 相原 敏子 (88歳)
 1/12 マリア・テレジア 江川 アイ (93歳)
 1/15 パウロ 中川 晋介 (81歳)
 1/17 使徒ヨハネ 竹内 保朗 (53歳)

教会維持費

1月は1,080,600円の維持費が納められました。有難うございました。

教会の維持・運営・宣教活動は、教会信者全員が毎月納める維持費によってまかなわれますので、よろしくお祈りします。

2015年2月 - 3月行事予定表

	教会典礼歴	南山教会行事	各会活動	教区行事・その他
2月	18(水)灰の水曜日(大齋小齋) 22(日)四旬節第一主日	8(日)9:30堅信式・日英合同ミサ 22(日)洗礼志願式	1(日)11:00 運営委員会 6(金)マリア会例会(懇談会) 8(日)ヨセフ会班長会 15(日)典礼委員会 15(日)ヨセフ会親睦会 21(土)10:30子ども部屋 28(土)要約筆記付きミサ	18(水)四旬節愛の献金(四旬節中) 19(木)司祭協議会 26(木)司祭評議会
3月	聖ヨセフの月 19(木)聖ヨセフ	15(日)子どものミサ 21(土)22(日)四旬節の黙想会・共同回心式	1(日)11:00 運営委員会 8(日)典礼委員会 8(日)ヨセフ会班長会 13(金)マリア会例会(懇談会) 21(土)10:30子ども部屋 28(土)要約筆記付きミサ 29(日)教会学校・中高生会卒業式	6(金)世界祈祷日 28(木)教区評議会